

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

「観光」×「交通」まちづくり再生計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道久遠郡せたな町

### 3 地域再生計画の区域

北海道久遠郡せたな町の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地方創生の実現における構造的な課題

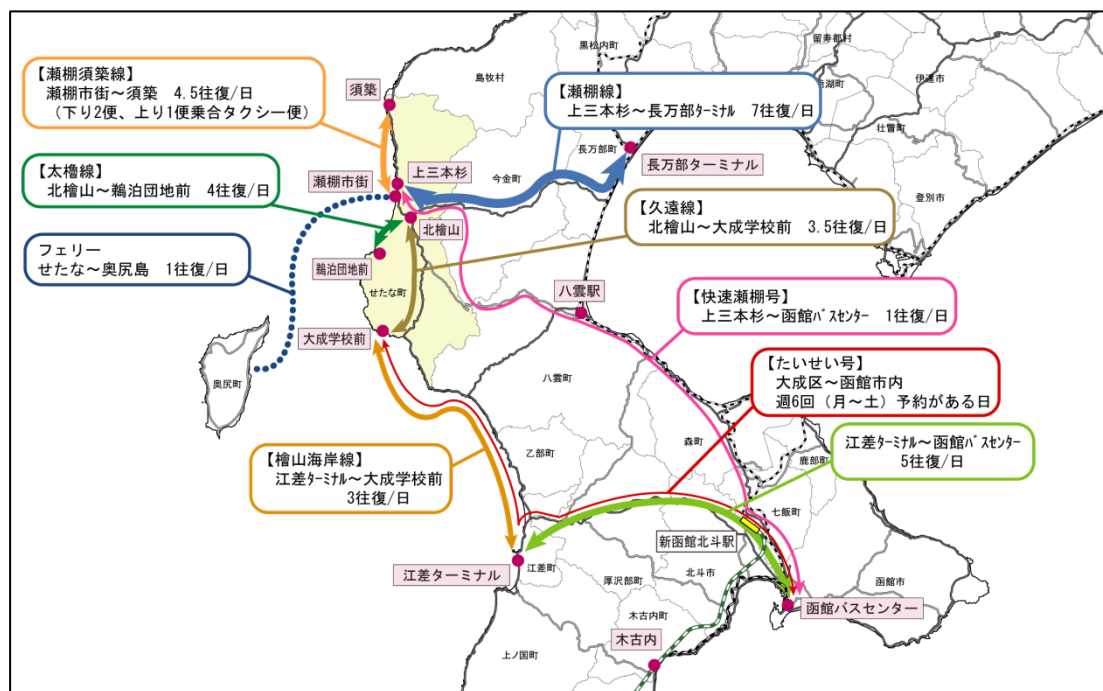
せたな町は、北海道の南西部、日本海に面した檜山振興局管内の北部に位置し、総面積638.68km<sup>2</sup>、人口8,195人（平成29年12月末現在）の農山漁村である。

せたな町へは、毎年22万人程度の観光客が訪れており、平成28年の観光入込客数は約22.9万人であった。本町へ来訪する観光客の特徴としては、道内客が全体の約90%を占め、日帰り客の割合も約90%と高く、通過型観光が主流となっている。

本町には水質最高ランク「AA」の評価を受けている3つの海水浴場、道南五大霊場のひとつであり、日本一険しい参道と言われている太田神社といった豊かな自然環境・観光資源があり、平成31年にはせたな町をロケ地とした映画の公開を控えている。これらの観光資源を有効に活用するため、平成28年3月に開業した北海道新幹線を絡めた広域的な観光ルートづくりなど、通年型の観光振興施策を展開し、観光協会を中心とした官民協働での新たな観光地づくり、映画公開に向けてのプロモーション活動等を通じて、これまでの通過型観光から滞在型観光へのシフトを図ることが必要である。

一方、せたな町の公共交通機関としては、鉄道はなく、民間事業者の運行するバスが6路線あるのみである。また、町が運行しているバスも1日の便数が少なく、主な観光スポットへの交通アクセスが整備されておらず、観光客にとって利便性が高いとは言えない状況である。さらには、農村エリアを中心に公共交通空白地帯も生じていることから、バス路線のデマンド化などを図り、これまで公共交通機関では行くことができなかった観光スポットへの交通アクセスの整備が必要である。

●せたな町公共交通ネットワークの現状（平成29年度）



4-2 地方創生として目指す将来像

せたな町では、豊かな自然環境や地元農水産物、温泉などの観光資源の有効利用を図り、個性ある「せたな観光」の形成を目指して、体験型観光の推進と受入体制の整備充実に努めている状況である。近年では、日本一険しい参道のある「太田神社」がテレビ取材を受けたほか映画のロケ地となり、全国各地からの参拝客や観光客で賑わいをみせている。平成31年1月頃の映画の公開を起爆剤として、プロモーション活動やツアー企画など、地域の特性や豊かな自然を活かした観光振興を図る。

また、利用者の少ないバス路線や運行が重複しているバス路線のデマンド運行化やデマンド型乗合タクシーの導入を行うための実証運行を実施し、単なる公共交通空白エリアの解消に留まらず、観光消費が期待される道外客を呼び込むため、町内の移動手段を整備し町の観光産業及び地域経済の活性化を図る。

## 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H30 年度 増加分 1 年目	H31 年度 増加分 2 年目	H32 年度 増加分 3 年目	KPI 増加 分の累計
観光客入込客数 (道外客) (千人)	19.30	1.00	1.00	1.00	3.00
町内宿泊客数 (千人)	19.20	5.00	6.80	5.00	16.80
地域間幹線系統 (瀬棚線) 輸送人員 (千人)	126.00	0.10	0.10	0.10	0.30

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

交流人口の増加や地元の活性化を図るため、株式会社クリエイティブオフィスキューと包括連携協定を結び、せたな町をロケ地とした初の映画公開に向け、プロモーション活動の実施、ロケ地を巡る来訪者に向けてのロケ地マップの作成、ロケ地への誘導・規制看板の作成を行い、せたな町への新しい人の流れをつくる。また、観光協会と連携を図り、先行上映会の開催や映画展示コーナーを設置し、さらには映画でのツアー企画を運営し、滞在型観光へ向けた取り組みを展開する。

併せて、町民アンケート調査結果を踏まえ、公共交通に関してさらなる研究を図り、路線の再編や新たな公共交通体系の構築に向けた実証運行を実施し、路線の再編や運行形態の見直しを行い、各地区にある拠点施設などを結ぶ新たな公共交通ネットワークの整備を図る。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

#### (1) 地方創生推進交付金 (内閣府) : 【A3007】

##### ① 事業主体

北海道久遠郡せたな町

##### ② 事業の名称 : 「観光」 × 「交通」 まちづくり再生計画

##### ③ 事業の内容

北海道新幹線開業により、関東地方や東北地方など他地域との交流人口の増加に伴う経済効果は大きいと期待されており、豊かな自然や豊富な山海の幸などこれまでの取り組んできた町の魅力発信について、来年公開予定のせたな町をロケ地とした映画の公開を機に、株式会社クリエイティブオフィス

キューと連携を図り、せたな町に秘めたポテンシャルを引き出すノウハウを融合させ、新たな PR 活動の実施や特産品開発、さらには映画のタイトルにあわせたツアー企画を実施し、交流人口の増加や地元商店街の活性化を目指す。

④ 事業が先導的であると認められる理由

**【自立性】**

町における観光の主軸である観光協会の法人化を早急に進め、独自のグッズ販売や町と連携したふるさと納税による商品の取り扱いを行い、自主財源の確保を図る。

法人化に向けては、検討中であり会員との協議がまとまり次第、法人化に向け手続きを行うこととしている。

**【官民協働】**

観光協会や株式会社クリエイティブオフィスキューと連携を図り、映画公開に向けたプロモーション活動を実施し、地域の特性や自然豊かな豊富な資源を活かした観光振興を行い、交流人口の増加や地域商店街の活性化を図る。

**【政策間連携】**

町にある豊富な観光資源を活かした滞在型観光や新たな観光資源の発掘・発信するとともに、町村合併後に取り組んでこなかった、町内の公共交通体系の見直しを図り、新たな観光地づくりに取り組み、せたな町の魅力を発信することにより、交流人口の増加と地元商店街の活性化を図る。

**【地域間連携】**

主要となる地域間幹線系統路線等は近隣 4 町や檜山管内 7 町を結ぶ主要な路線であり、この路線を存続・維持させるためにも利用者増を図るため、檜山振興局管内 7 町連携事業や北渡島檜山 4 町連携事業などの連携事業を展開するとともに、広域的な情報の発信を行う。

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H30 年度 増加分 1 年目	H31 年度 増加分 2 年目	KPI 増加 分の累計
観光客入込客数 (道外客) (千人)	19.30	1.00	1.00	3.00
町内宿泊客数 (千人)	19.20	5.00	6.80	16.80
地域間幹線系統 (瀬棚線) 輸送人員 (千人)	126.00	0.10	0.10	0.30

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

せたな町創生有識者会議にKPIの達成状況や実施した方策を提示して、PDCAサイクル検証を行う。進捗状況によっては事業の見直しを図る。

【外部組織の参画者】

北檜山区地域協議会、瀬棚区地域協議会、大成区地域協議会、北檜山町農業協同組合、新函館農業協同組合若松支店、ひやま漁業協同組合、せたな商工会、せたな観光協会、北海道檜山北高等学校、渡島信用金庫新せたな支店、せたな地区連合代表者

【検証結果の公表の方法】

町ホームページなどで公表

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 20,154 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日（2ヵ年度）

⑨ その他必要な事項

特になし

(2) まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業名：「交通」まちづくり再生計画

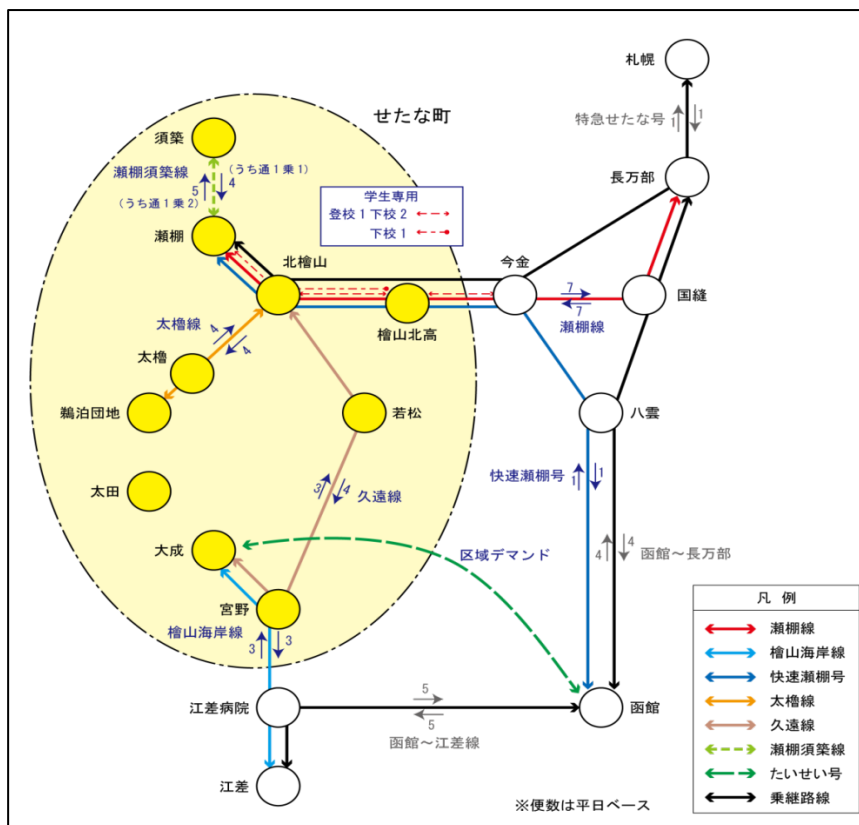
② 事業区分：まちづくり

③ 事業の目的・内容

(目的)

海岸沿線の観光資源や今回のロケ地となった農村地帯などへの交通アクセスが無い状況であることから、利用者増加のため路線の見直しやデマンド型乗合タクシーの導入などを実施し、公共交通機関の利便性を向上させることにより、観光入込客数を増加させ、地元商店街の活性化と観光振興を図ることを目的とする。

●せたな町バス運行路線概要図



(事業の内容)

本町の公共交通を取り巻く現況調査や公共交通事業者ヒアリング、地域住民を対象としたアンケートやバス乗降データにより需要や利用動向を把握する。

この結果に基づき、利用促進を図るため、運行時間やバス停の場所などを見直すとともに、既存路線のデマンド化に向けた実証運行を実施する。

また、高齢化が進む農村地帯の公共交通空白エリア解消のため、デマンド型乗合タクシーの導入に向けた実証運行を行う。

併せて観光客が利用しやすい宿泊施設を起点として町内を巡るバスなどの新たな交通体系の構築を図ることにより、高齢者の交通手段の確保と観光客が町内を巡りやすい環境整備を図る。

→各年度の事業の内容

#### 「交通」まちづくり再生事業

初年度) 交通事業者等で構成している、せたな町地域公共交通活性化協議会が事業主体となり、既存路線のデマンド化に向けた実証運行を実施し、地域の町民や観光客など利用者の利便性向上に向けた路線の見直しを図るとともに、公共交通機関を利用してアクセスする観光客向けの宿泊プランなど、道内外の宿泊客などの取り込みに向けた利用促進を図る。

2年目) 映画ロケ地となった農村エリアを中心とした公共交通空白地帯の解消に向けたデマンド型乗合タクシーの導入に向けた実証運行を行う。公共交通機関を利用して訪れた観光客がロケ地を巡れるとともに、高齢化が進んでいる農村エリアの高齢者の交通手段の確保を図る。

#### (4) 地方版総合戦略における位置付け

本町の創生総合戦略において、「せたな町への新しい人の流れをつくる」ため、豊かな自然と多彩な資源を活かした観光地づくりを目指しており、この度の当町を舞台とした映画公開は観光地づくりへの起爆剤となるものである。また、総合戦略において観光客入込客数（道外客）（H31：21.3千人）、町内宿泊客数（H31：11.8千人）を定めており、本プロジェクトは、まさにこの目標の達成に寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

事業	交通網再編実証運行事業			年月
	KPI 観光客入込客数 (道外客) (千人)	町内宿泊客数 (千人)	地域間幹線系統（瀬 棚線）輸送人員 (千人)	
申請時	19.30 千人	19.20 千人	126.00 千人	H29.9
初年度	20.30 千人	24.20 千人	126.10 千人	H30.9
2年目	21.30 千人	30.80 千人	126.20 千人	H31.9

(6) 事業費 (単位：千円)

	年度	H30	H31	計
		事業費計	6,966	5,000
区分	負担金、補助及 び交付金	6,966	5,000	11,966

(7) 申請時点での寄附の見込み (単位：千円)

	H30	H31	計
コンサルタント会社	1,000	1,000	2,000
計	1,000	1,000	2,000

(8) 事業の評価の方法（PDCA サイクル）

(評価の手法)

実証運行利用者からのニーズ調査や利用実態調査を行い、これらの結果を基にせたな町地域公共交通活性化協議会で検証を図り、平成 31 年度以降の運行方法をさらに検討・協議していく。

(評価の時期・内容)

実証運行評価は、せたな町地域公共交通活性化協議会により検証を行い、総合戦略事業においては、せたな町創生有識者会議に K P I の達成状況や実施した方策を提示して、P D C A サイクル検証を行う。

(公表の方法)



評価の公表については、毎年度町のホームページで行う。

(9) 事業期間

平成 30 年 4 月～平成 32 年 3 月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 「観光」×「交通」まちづくり再生計画

事業概要：地域おこし協力隊や地元町民などでガイド協会を設立し、ロケ地巡りや体験型観光のツアーガイドを養成し、さらには地元飲食店協会と連携を図り、劇中で出された料理やスイーツを商品化するなど、フィルムコミッションを活用した地域の活性化の検討を図る。

実施主体：せたな町、せたな観光協会、株式会社クリエイティブオフィス  
キュー

事業期間：平成 31 年度～平成 32 年度

(2) 「交通」まちづくり再生計画

事業概要：変化する地域や観光客のニーズに対応した、広域運行する公共交通路線維持確保に向けた協議の場づくり、公共交通利用の促進に向けたバス体験試乗会などの取り組みを実施する。

実施主体：せたな町、せたな町地域公共交通活性化協議会

事業期間：平成 32 年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 33 年 3 月 31 日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

【検証方法】

せたな町創生有識者会議に K P I の達成状況や実施した方策を提示して、P D C A サイクル検証を行う。進捗状況によっては事業の見直しを図る。

### 【外部組織の参画者】

北檜山区地域協議会、瀬棚区地域協議会、大成区地域協議会、北檜山町農業協同組合、新函館農業協同組合若松支店、ひやま漁業協同組合、せたな商工会、せたな観光協会、北海道檜山北高等学校、渡島信用金庫新せたな支店、せたな地区連合代表者

## 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H30 年度 増加分 1 年目	H31 年度 増加分 2 年目	H32 年度 増加分 3 年目	KPI 増加 分の累計
観光客入込客数 (道外客) (千人)	19.30	1.00	1.00	1.00	3.00
町内宿泊客数 (千人)	19.20	5.00	6.80	5.00	16.80
地域間幹線系統 (瀬棚線) 輸送人員 (千人)	126.00	0.10	0.10	0.10	0.30

## 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

毎年度、創生有識者会議により K P I の達成状況等の検証後、町ホームページなどで公表を行う。